



## 第8号 ご挨拶

KPMG 中国がまとめた『中国展望 2018 – 新しい時代の始まり、グローバル化の新しいパラダイム』の日本語版をお届けします。本報告書では最近の中国経済・事業環境の変化と対中直接投資・中国発の对外投资の新たなトレンドについて解説し、それらがもたらす新しい形でのグローバル化の議論と外資系企業への示唆を提示しています。私も日本人公認会計士・企業アドバイザーとして四半世紀にわたり、中国は上海から日中双方のビジネスを注視してまいりましたが、本年 2018 年はいくつかの観点から日本企業の中国事業に対する見方としては、いわゆる潮目の変わる年になっていると思っています。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

## 1. 「中国展望 2018」 新しい時代の始まり、グローバル化の新しいパラダイム

第 1 に新たなスーパーパワーとしての中国の国際的立場の変化があります。巨大かつ急速に成長する国内市場を背景として中国は「一帯一路」や「中国製造 2025」などの重点政策を通じてグローバル化と国際的技術標準におけるリーダーシップを発揮しつつあります。対中直接投資に関しては、環境・ヘルスクエアなどを中心にいまだに活発ではありますが、いまやそれ以上に中国は対外直接投資国として世界経済における存在感を増しています。

第 2 の潮流変化として日中関係の改善・進展が挙げられます。この点は日本企業にとって非常に重要ですが、それにより現在の中国市場の重要さと事業上での攻略の難しさが一層、明らかになってきました。中国で事業を展開・計画する日本企業にとっては機会とリスクの両方がより明確に見えてきているのではないのでしょうか。

第 3 に中国のインターネット経済・ICT 企業の急激な発展に対する、日本企業の見方の変化があります。具体的には日本の技術が持っていた圧倒的な優位性・自信から中国発のモバイルやビッグデータの活用を基盤とした新しいビジネスモデルへと関心が移っているように思われます。実際、この点に関しては日本企業の深圳詣でや百度・アリババ・テンセントなどのいわゆる中国の 21 世紀 ICT 企業への調査のお問い合わせなどにも表れています。

中国がグローバルに重要性を増していく中で、日本企業は、また日本経済は相対的に地盤沈下していくのでしょうか。私たちはそうは考えていません。逆に中国への直接投資にしても、中国からの对外投资にしても、今こそ日本企業が中国企業と共に付加価値を、これまでに無かったような規模で追求できる機会が数多く創造されていると考えています。ただし、その事業機会は主に、従来の地理的境界線や事業区分、既存の常識や概念を超えたところに存在し、その実現は必ずしも容易ではないでしょう。

本報告書では中国マクロ経済の統計データを参照しつつ、新しい事業モデルに対する議論もあわせて行っているところに特徴があります。これらの議論が日本企業の今後の中国ビジネス（これは単に中国国内での事業展開に留まりませんが）に対して有益な示唆を与えることを期待しております。

- > [全文はこちら](#) (日本語)
- > [全文はこちら](#) (英語)
- > [全文はこちら](#) (中国語)

## Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: [gjpmarkets.china@kpmg.com](mailto:gjpmarkets.china@kpmg.com)

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247) (日本語)